

株式会社白樺堂

長野県北佐久郡軽井沢町

<http://www.shirakabado.com/>



店舗概要

創業年 1951年(昭和26年)
売場面積 234.3㎡(71.0坪)
従業員 36人
営業時間 9:00~18:00
定休日 なし
売上高 628,132(千円)

商品構成

自社製品 50.0%
仕入れ商品 50.0%

経営方針

- ・製造直売に力を入れている。
- ・ブルーベリー農園を持っていることにより、それを使った商品などに力を入れている。
- ・軽井沢らしい商品の開発を増やす。

観光地軽井沢で地域に根ざしたオリジナリティ溢れる商品で 観光客を惹きつける

[地元の農産物を活用した商品作り]

当店は、長野県北佐久郡軽井沢町に所在し、本店ともいうべき軽井沢駅前通り店のほか軽井沢地区に4支店がある。商品については、自社商品と仕入商品の両方を取り扱っており、その割合はほぼ半々であるが、自社商品を自社で直販する方向に転換している。商品開発については、多くの試作品を作っているが、試験販売をして改良していくということではなく、自信が持てる商品になるまで販売しないとのことで、主力商品としては、「軽井沢タルト」(5年連続でモンドセレクションの金賞を受賞している。)、軽井沢のジャムを入れた「軽井沢ドレッシング」、竹炭を入れた黒い皮の最中を浅間山の噴火に見立てた「浅間山火山岩最中」、自家製キャラメルや粒々に作ったカスタードプリンをクリームに混ぜた「プリン生どら焼き」など地域に根ざしたオリジナリティのある商品を開発している。自社商品の販売を強化し、卸売を縮小していること、直営の飲食店を止めたこと



により売上高は減少傾向にあるが、経常利益は増加しており収益性は高まっている。売上増よりも経営体質の強化を重視している。

店舗展開については、急激な多店舗化は慎重に判断すべきと考えており、最近10年間は既存店のリニューアルや製造設備への投資を優先し、会社の経営基盤を整備している。新規の出店要請もあるが、慎重に考えている。また、自社農園でブルーベリーを作っており、ジャムやソースに活用しているが、収穫が不安定で改善が必要と考えている。現状は、会社のイメージアップに役立っている。

軽井沢は、夏の保養地として有名であり、夏季の繁忙期と冬季の閑散期の落差が大きい。人員を確保するため正社員を中心に雇用している。閑散期には、「試作の実行、展示会や見本市の視察、表示や商品の勉強会」などを奨励している。



[店舗施設や販売促進のための工夫]



店舗については、外装はこげ茶色と白を基調にし、店内はオレンジ色をイメージカラーとして統一している。入口に近い目立つところに軽井沢タルトなどの自家商品を山積みして購入を促している。

レイアウトを夏と冬で変えており、夏は店内の人の流れがスムーズとなるよう通路に物を置かないようにし、ケースの下に商品を在庫、商品の補充をこまめに行っている。冬は、商品の量を少なくしながらボリューム感を維持

するようにし、空き箱の利用や棚の数、陳列の高さの調整などを行っている。お客の店内での滞留時間を延ばすため、試食の案内や無料のお茶を提供している。駅前通り店では、バウムクーヘンの製造状況が見えるようにガラス窓にしている。店内には美味しそうに見える商品のポスターを掲示している。

商品については、前述のとおり地域に根ざしたオリジナリティのある商品を開発販売しており、商品のイメージアップを図るため、平成18年JALに軽井沢タルトが機内食茶菓に採用された。また、軽井沢タルトは平成22年から5年連続でモンドセレクションで金賞を受賞している。また内部で販促のためのミーティングを行い、新しい菓子のアイデアなどの成果が出ている。

[人材育成・内部コミュニケーションの確保など]

人材育成については、毎年個人ごとに目標と課題を明確にし、文章にまとめ、目標行動チャレンジリストを作成している。その実績を確認するため、目標の達成度を「出来たこと、やったこと」に文章化している。社員表彰については、表彰理由を点数化・文章化して社員に説明をしたうえで実施している。内部のコミュニケーション確保のため、意見やアイデアは書面によるやり取りを原則としている。

冬季の閑散期対策として、①新しい商品の試作を徹底的に行う、②展示会や見本市への視察を奨

励し、知識の向上に役立てる、③商品や表示の勉強会の開催、④有給休暇の消化などを実施している。

【店舗立地】

店舗は、長野県北佐久郡軽井沢町内に 5 店あり、軽井沢プリンスショッピングプラザウエスト内の「しらかば」店の売上が最も多い。各店は、軽井沢駅周辺及び旧軽井沢銀座通りに集中して立地しており、当店の商品は軽井沢の土産物として一般的なものとなっている。

軽井沢町の人口は 2 万人程度で多くはないが、年間観光客数は 800 万人近くに上り、特に夏季はその半数が集中して訪れる。このように観光客のニーズに合わせた商品を強化し、売上高は 6 億～7 億円という高いレベルを確保している。

【店舗実績】

経営者は、平成 23 年に夫から代表取締役を引き継いだ女性で、昭和 60 年に当社取締役、昭和 62 年から副社長を務め、社長就任後更に収益力が増している。

当社は、これまで昭和 45 年の軽井沢駅前大火(全焼 27 戸、災害救助法が発動される)によるゼロからのスタートや平成 20 年代に入ってから浅間山小規模噴火、東日本大震災などの災害を乗り越えて、現在の良好な経営成績を上げるまでに改善を重ねている。



代表取締役の小林久子さん